

太白

TAIHAKU

新社屋で初の防災訓練 ～コロナ禍の中で～

k h b 東日本放送 総務部兼情報システム部 堀田 卓

JR長町駅、地下鉄長町駅から徒歩5分の場所に建つ、東日本放送の新社屋。建物前面に斜めに張り出した大きなガラス張りの階段がひととき斬新な建物です。新生 khb が目指すのは「地域に開かれたテレビ局」。1階エントランスは、誰でも自由に入れるオープンスペースになっていて、カフェやショップ、ホールなどがあります。中でも東北唯一の最新型エスプレッソマシンを備えた「ぐりりカフェ」は家族連れなどに人気です。またホールは一般にも貸し出されていて、ピアノの発表会や演劇等さまざまなイベントでの利用が期待されます。

一方、新社屋は災害への備えも重視した構造となっています。大地震の際にも放送を継続できるよう耐震安全性は最高レベルに設定。非常用発電機を2台設置し、地下埋設タンクには7日間継続的に発電できる量の軽油を備蓄しています。さらに河川の氾濫を想定し、1階は1mかさ上げ・高床化しています。

旧社屋とは全く異なる環境・設備の中でどのような防災訓練を行えばよいのか？当初は1階に多くの来客者がいるという想定での訓練も検討しましたが、コロナの中で密を避けるため断念しました。9月に初めて行った訓練は最小限の社員・スタッフで実施しました。

各フロアをつなぐガラス張りの階段＝コラボ階段に象徴されるように、建物内はドアや壁での区切りをできるだけ少なくし、全体が見渡せる設計になっています。訓練では、新社屋のこうした構造を意識して「通報」「防火扉による区画の形成」「排煙口の開放」「避難誘導」など参加者で役割分担をしました。「排煙口」は有毒な煙を排除し避難経路を確保するための重要な設備ですが、密閉した放送スタジオでは気圧差が生じ、ドアの開閉に必要なことも訓練を通して学びました。

想定外に参加者を苦しめたのが、コロナ対策で着用が当たり前となっている【マスク】の存在でした。4階からコラボ階段で避難した者は屋外までたどり着く前に途中で息切れ…、防火扉の操作を担当した社員も途中でダウン寸前でした。(コロナ禍による運動不足も背景にあったかと思います)

2021年の年末には大阪の雑居ビルで多くの方が犠牲となる火災が発生しました。この惨事は決して

他人事ではありません。来年以降は今回コロナ禍で実施できなかった「来客者の避難」も含めて訓練を実施できればと思っています。

最期につたない知識の参加者に対して、優しく丁寧に指導下さった太白消防署の職員の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました！



ぐりりカフェ



社屋外観



消火栓訓練